キラリ通信

令和8年6月5日発行
特別支援教室四小キラリ
全校版

拠点校　第四小学校長　浅尾　文
巡回校　第一小学校長　菊池　修
巡回校　新生小学校長　千葉　貴樹

一人一人の得意なところを伸ばして、困っているところ、苦手なところを自分に合った学び方で分かる(できる)ようにしていくための学びの場として、各校に特別支援教室(キラリ)が設置されています。

特別支援教室キラリの紹介

・児童一人ひとりの課題や在籍学級での適応状態などを踏まえて、指導目標を設定します。
・指導の内容や児童数、学年などを考慮しながら、個別指導や小集団指導を行います。
・キラリで学んだ内容を担任の先生と共有し、在籍学級での指導や支援に活用します。

自立活動

個々の障害による、学習上または生活上の困難を改善したり克服したりすることを目的とする指導です。
例えば・・・

コミュニケーションの指導
実際の生活に応じたコミュニケーション方法の学習を通して、身近な人と安定したコミュニケーションがとれるように指導します。

自己理解の指導
自己の理解しやすい学習方法の学習を通して、自己の得意な方法を理解し、自分で学びやすい方法で学習きるように指導します。

人間関係の形成の指導
自己に対し肯定的なイメージを持つ学習を通して、身近な人と一緒に活動したり、意思を交換したりできるように指導します。

身体の動き、環境認知の指導
興味・関心に応じた道具を使って、手指を動かす学習を通して、作業等の際、自己調節し持続できるよう指導します。

教科的な内容を取り扱う自立活動

いわゆる補習や復習とは違います。一人ひとりの特性によるつまずき、苦手なところに特化した指導です。苦手の原因や理解の仕方などを児童と一緒に考えます。

授業への参加が難しい原因

- 状況理解(社会性)
- 見通し（時間・行動)
- 学習意欲(意味理解・価値づけ)
- 集中力（刺激)

理解する(分かる)ことが難しい原因

- 認知の偏り
- 学習スタイル
- 複数作業の苦手さ
- 曖昧さの理解
- イメージの弱さ
- 反復学習が必要

教科的な内容を取り扱う自立活動の例

・漢字の構成
・言葉の意味を理解するための指導
・物語文全体を視覚的にとらえる指導
・心情理解のための指導
・説明文の内容理解のための指導
・数の概念や計算の仕組み
・文章問題の解釈
・図形問題の視覚的理解
・三角定規・分度器などの用具の使い方
・学習方法の改善指導

特別支援教室キラリの対象

知的な発達には遅れがなく、通常の学級の授業におおむね参加できているが、

・勉強面で得意、不得意の差が大きい。(例:読み書きだけ苦手、計算はできるが、文章題だと難しいなど)

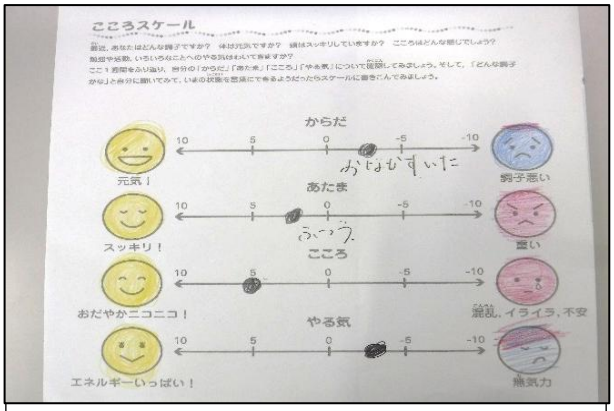
・相手の気持ちを理解すること、自分の感じたことを言葉で表現するのが苦手。

・急な予定変更や、初めての場所、初めてのものごとが苦手。こだわりが強い。

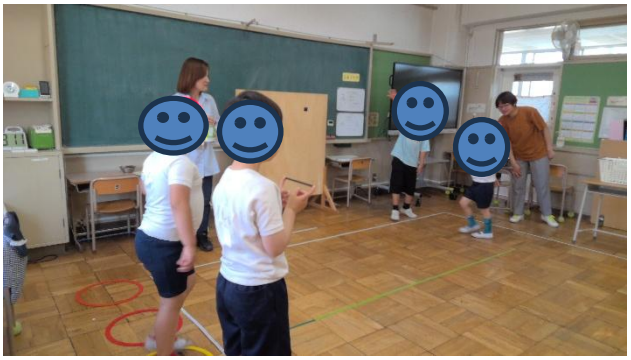
・集中力が長く続かない反面、夢中になると切り替えが難しい。

などの、発達のアンバランスや情緒面、社会性に課題のあるお子さまのための教室です。

授業の様子



【自己理解の指導例】(可視化)
出来事と心・気持ちを確認して、自己理解を深めています。



【コミュニケーションの指導例】
気持ちの良いやりとりができるように、ルールを守って活動する、勝敗にこだわらずに取り組める姿勢を育てる学習をしています。



【身体の動きの指導例】
バランスボールなどを使って、体幹を意識した運動をしたり、道具を使って協調運動を行ったりする活動をしています。



【教科的な内容を取り扱う指導例】
タブレットを活用する、漢字を部首で覚えること、九九を語呂合わせや歌で覚えるなど、自分に合う覚え方や取り組み方を探っています。

✿キラリについてお聞きしたいこと等がありましたら、担任、特別支援コーディネーター、校長、副校長にお声掛けください。